

教師力を伸ばすための インプット と アウトプット

春日井学力研 堀井 克也

インプットとアウトプットが大切

昨年の9月に、荒井先生が名古屋へ講演に来て下さった時のことです。終了後、一対一で話をさせて頂く機会がありました。

そこで、教師になつて8年が経ち、学力研の一員として色々実践もしてきたけれど、更に教師としての力量を伸ばすためにこれからどんなことを意識していけば良いのでしょうか…と相談すると、「インプットだけでなく、アウトプットすることを意識していかないといけないですよ。」という助言をいただきました。

それ以来、いつも頭のどこかでインプットとアウトプットという言葉を意識しながら過ごしています。

そこで、今回のテーマ「教師力のつけ方、高め方」に沿って、自分がしてきた、また現在進行形でしているインプットとアウトプットについて書きたいと思います。

何はともあれ身銭を切る」と

私にとっての教師力を高めるためのインプットは、勉強会への参加と、読書です。

学力研関連の勉強会についてはこの広場やホームページ、各種チラシ類を見て参加しますが、それ以外にもブラウザのブックマークに「こくちーず」と「先生ポータル」を入れておき、通勤の電車の中などで定期的にチェックしています。先生ポータルからは時々愛知県内のイベントの通知が来るのでとても便利です。雑誌で記事を読んでも名前を知っているような人を見付けると、出来る限り足を運んで学びの幅を広げるようにしています。(最近は週末に子どもの習い事が入るようになってきて、あまり行けていませんが…)がんばります)

家と職場の往復でなかなか書店に行けなくても、これまた通勤の電車の中でアマゾンや楽天ブックスをチェックし、興味の湧

いた本はほとんどお気に入りリストに追加しています。また、知り合いの先生方がどんな本を読んでいるかをさりげなくチェックして、真似して購入することもあります。

思い返してみると教員二年目の年、先輩教師から久保先生の「一斉授業の復権」を薦められた私は、その日のうちに買って読み、勢いで夏の全国フォーラムに参加しました。学びたいと思った時には、お金を惜しみませんでした。それが教師として成長する上でとても良かったと思います。

学校で一括購入している各学年の「教育技術」はあまり読めていませんが、自分で買った「教師のチカラ」はかなり読み返します。お金を出したからには元を取る！という思いが働くのでしょうか。

また、何らかの課題意識を常にもっていることも大切だと思います。例えば私は二年続けて四年生の担任になりましたが、「今年は何もうちよつと理科の授業をがんばって子どもをひきつけたいな。」と感じたため、早速教冊本を買って、職員室の机に置いて時々読んでいます。

インプットを他律的に発動させる

とはいえ、余裕が無くなってくるとインプットも覚束なくなります。成績処理の時期などは、一日に一ページの読書もしないこともしばしばです。情けないことですが。

そんな忙しい時でも、半自動的にインプットが発動するように数年前から活用しているものがあります。

メルマガです。学力研の岡先生も発行されていますね。

登録しておけば、こちらの意思とは無関係に届き、読むも読まぬも、読むとしていつでも読むのかもこちらの自由です。

最初に登録したのは、千葉県の松尾英明先生のメルマガでした。何がきっかけだったかは正直よく覚えていないのですが、このメルマガを読み始めたことに端を発して、現在合計で十件ほどのメルマガを購読（とはいえ無料のものばかりですが）しています。中には教育とは直接関係の無いビジネスマン向けのものもあります。興味深く読んで、自分の仕事との関連を自分で考えるのもまた、楽しいものです。

電車の中で周りの人と同じようにスマホ

とにらめっこしているように見えても、こっちはゲームなんかで暇つぶししてるわけじゃなくて、有意義な学びをしているんだからな、なんて静かに胸を張っています。

アウトプット初心者を取り組み

一方、アウトプットについては、まだまだ取り組み始めたばかりです。

まず、昨年度から学級通信を毎日書くことにしました。障害が多く、印刷して配ることは出来ず学級に掲示するにとどまっていたのですが、書き続けていると子どもを見る目が鍛えられていくのが実感できます。また、自分のものの見方や考え方を文章にする経験を積むことができるのも大きいです。子どもたちにも、話して伝えようとするより学級通信に書いた方がよく伝わっていることがあります。先生の話を受動的に聞くより、能動的に通信を読む方が心地よいのかもしれない。

また、自分より経験の浅い職場の若い先生方に、学力研の実践を紹介するように心掛けるようになりました。例えば4月には漢字や計算の実態調査を行います。今年はずいぶん「こういふプリントを使って、子ど

もの実態を把握する予定です。良かったら使ってみて下さいね。」と伝えてみました。内弁慶で今まであまりこういう活動に力を入れてこなかったもので、これからがんばっていききたいと思います。

そして最大のアウトプットが、こうして広場の原稿を書くことや、自分の実践について人前で話することです。

特に、発表の場を前もって設定していたら、それに向かって実践もし、記録も取るので、得るものが非常に多くなります。「こんな奴の話が、誰の役に立つのだろうか」という不安と戦いながら、内容を考え、プレゼンを作り、練習をするままがとてつもない教師修行になっている気がします。アウトプットが大切だ、という思いを常にもっていたからこそ、発表の場を自ら求めるようになり、それが教師力を伸ばすことへとつながっていています。

インプットだけをひたすら重ねるより、アウトプットを前提としてインプットを重ねる方が、絶対に成長できると思います。ちよっとだけ勇気が要りますが、全ては教師力を伸ばすため。がんばりましょう。